

保護者 様

新居浜市立宮西小学校長 岡 俊 守

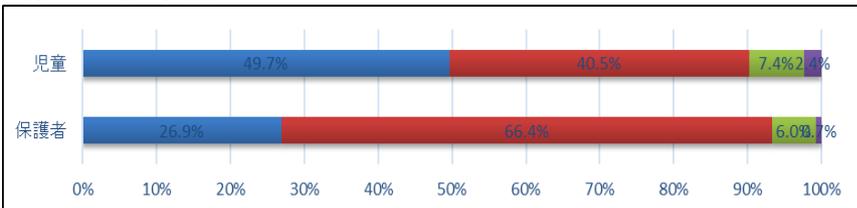
### 学校評価結果のお知らせ

12月に実施しました学校評価にご協力いただき、ありがとうございました。結果がまとまりましたのでご報告いたします。また、結果を基に、2月に学校運営協議会で話し合いをもちました。保護者の皆様からいただいた学校評価結果を真摯に受け止め、これからの学校教育活動に生かしてまいります。今後とも、ご協力、ご支援の程、よろしくお願いいたします。

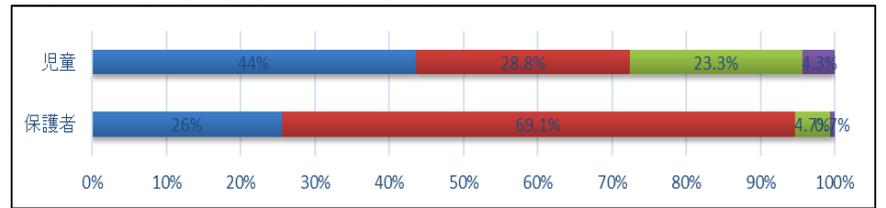
■ そう思う ■ 大体そう思う ■ あまり思わない ■ 思わない

目標値:(そう思う+大体そう思う)が80%以上

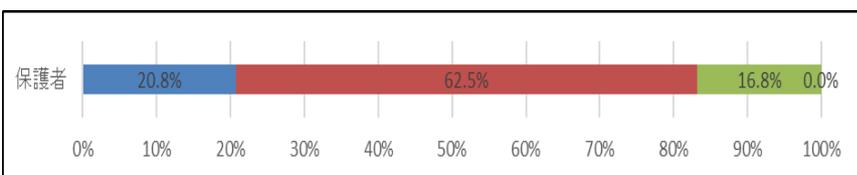
勉強をがんばっているか。(児)  
学校は、一人一人を大切に、分かる授業、楽しい授業に  
努めているか。(保)



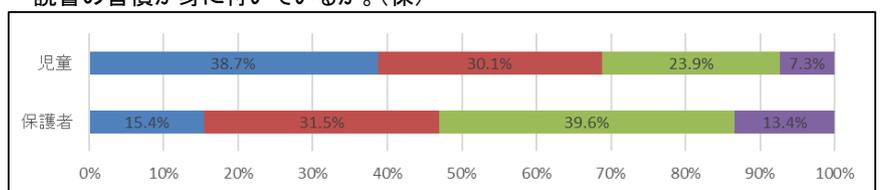
授業では、自分の考えを発表しているか。(児)  
学校は、体験的な学習・問題解決的な学習を重視し、子どもの  
学習への関心・意欲を高めているか。(保)



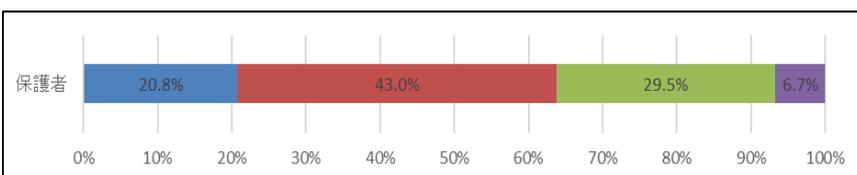
基礎学力は身に付いているか。



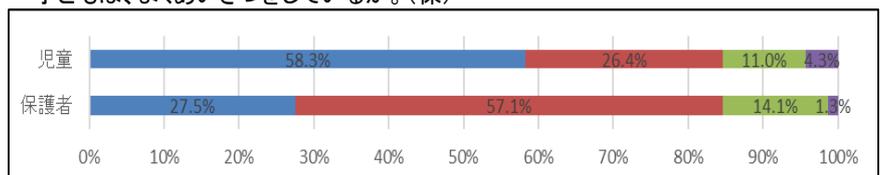
本をよく読んでいるか。(児)  
読書の習慣が身に付いているか。(保)



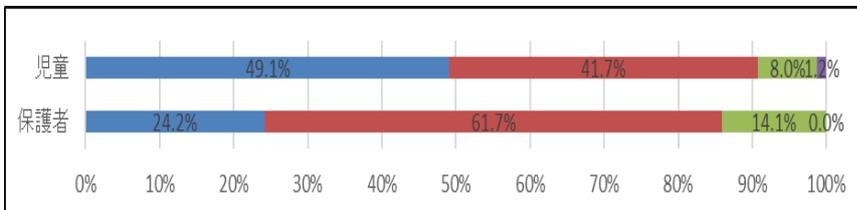
家庭での学習習慣が身に付いているか。(15分×学年)



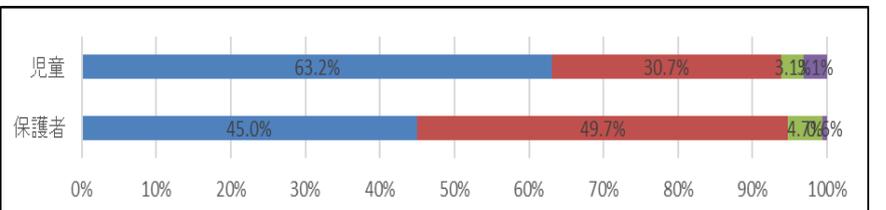
あいさつがよくできるか。(児)  
子どもは、よくあいさつをしているか。(保)



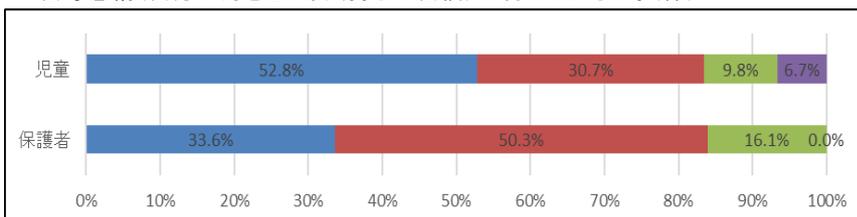
学校のきまりを守っているか。(児)  
発達段階に応じた規範意識が身に付いているか。(保)



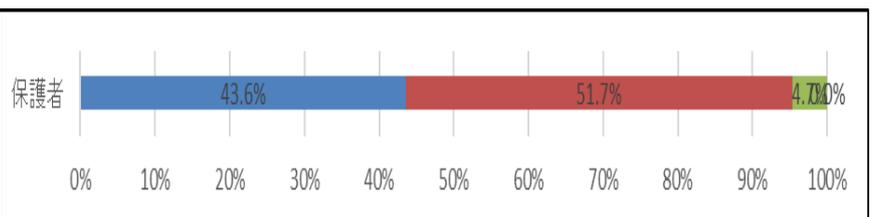
学校が楽しいか。(児)  
楽しく学校生活をおくっているか。(保)



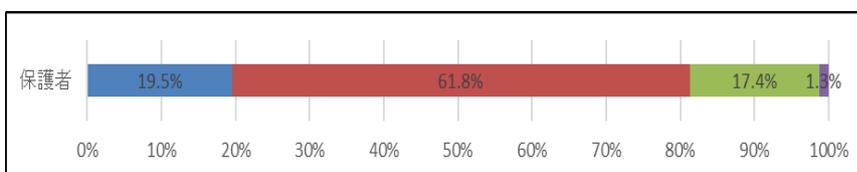
自分にはよいところがあるか。(児)  
自尊心(自分が好きという気持ちや自信)が育っているか。(保)



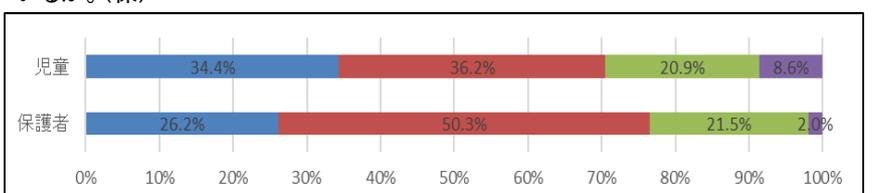
友達を思いやるやさしさが育っているか。



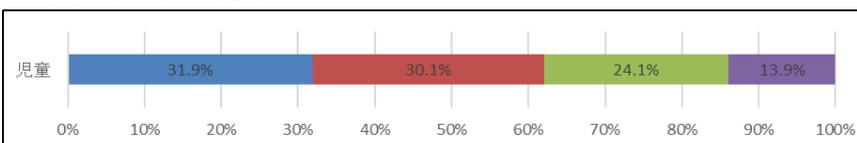
学校は、いじめ・不登校等の問題について早期発見、早期対応、  
早期解決に努めているか。



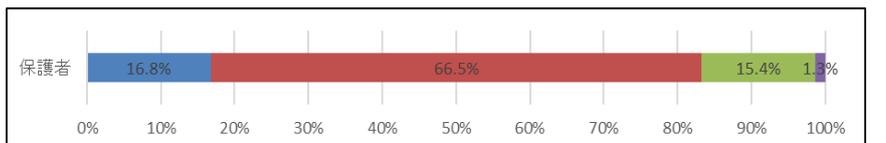
早寝早起きをしているか。(児)  
「早寝・早起き・朝ごはん」などの基本的生活習慣が身に付いて  
いるか。(保)



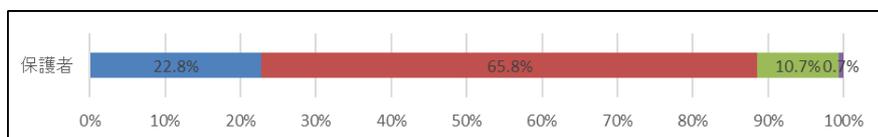
発達段階に応じた体力や運動能力が身に付いているか。  
(新体力テストの結果から)



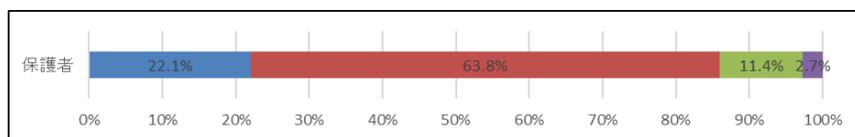
安全に対する的確な判断力や行動力が身に付いているか。



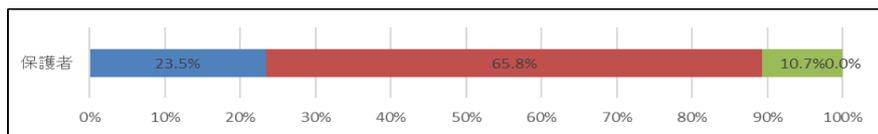
学校と家庭とは、信頼関係が築けているか。



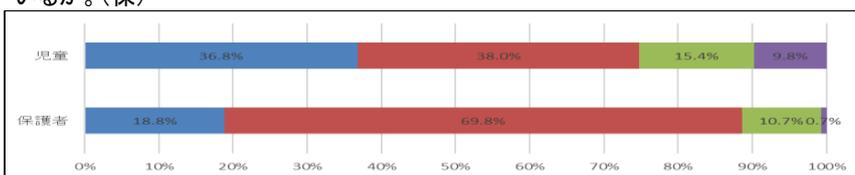
学校は、「開かれた学校」として積極的に情報発信ができていますか。



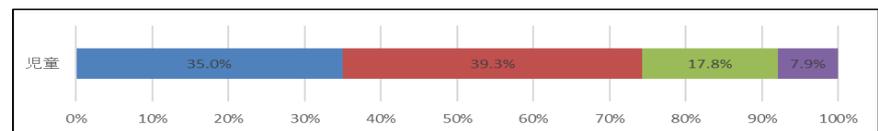
学校は、家庭・地域と連携して教育を進めているか。



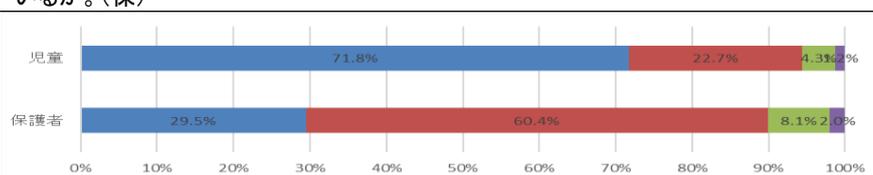
困ったことや悩みがあれば、先生に相談できるか。(児)  
学校は、子どもの悩みや保護者の相談に適切に対応できているか。(保)



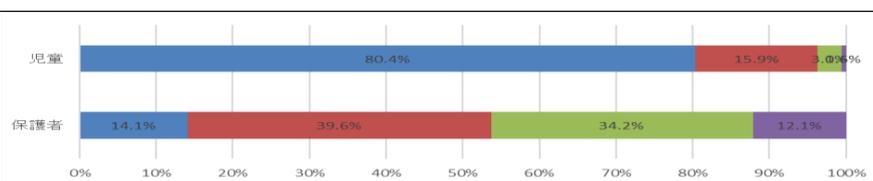
地域の行事に積極的に参加しているか。



授業でタブレットを積極的に使っているか。(児)  
学校は、積極的にタブレット等のICT機器を授業で活用しているか。(保)



タブレットは学校のルールを守って使っているか。(児)  
子どもは、ゲームやテレビ、スマートフォンの時間は、家庭で時間を決めて守れているか。(保)



◎ 自己評価結果についての考察及び改善策等

「そう思う・大体そう思う」が80%以上の肯定的な評価を受けている項目が多く、今年度の本校の教育活動について一定の評価をしてくださっていると思われま。しかし、学習習慣や読書習慣、スマートフォンやタブレットの使い方などは、「あまり思わない・思わない」が高くなっていたり、児童と保護者の意識に開きがあったりと課題となっている項目も見られます。また、「あまり思わない・思わない」のパーセンテージが低くても、細やかな対応をすべき項目もあります。

今後も、学習指導や生徒指導を充実させ、全校体制で様々な活動に取り組んでいきたいと思ひます。

<確かな学力>

読書習慣は、例年課題となっています。特に保護者の方々は課題と感じているようです。今後も、「うちどく」にはご協力いただきながら、児童の読書意欲を上げるためにも、多読賞や必読書の取組は継続していきます。また、「文章を読む」ことの抵抗を減らすための取組を始める予定です。また、学習習慣についても、読書習慣と同様に感じておられる保護者の方が多いようです。放課後児童クラブや放課後まなび塾を利用して、やるべき宿題を学校で終えて帰る児童も多いと思ひます。家庭に帰ってからの学びについては、習慣付けが必要なので、「家庭学習がんばり週間」や「学習の手引き」など活用し、家庭での学びのルーティン化を目指して学校からも発信したいと思ひます。

<生徒指導>

児童の評価が、「挨拶」「学校のきまり」「楽しい学校生活」「自尊感情」とどの項目においても昨年度より1割近く上昇しており、落ち着いた学校生活を過ごせていると感じている様子です。ただ、「楽しい学校生活」「自尊感情」については、まだ2割程度は「あまり思わない・思わない」と回答しており、全校体制で細やかな対応を心掛けていく必要があります。「学校が楽しい」「自分には良いところがある」と思えるよう、特別活動を中心に様々な場面で活躍できる機会を作り、特に学級内での係の仕事や、委員会活動、季節の行事を大切に進めていきます。

<人権・同和教育>

「いじめ・不登校への対応」については、肯定的な評価も多いですが、否定的な評価も2割近くになっています。今後も、保護者の方々の訴えに真摯に対応し、学校全体で問題に対して解決に努めていきます。

<ICT>

「タブレットやスマートフォンのルール遵守」の項目は、児童と保護者の意識の差ははっきりしています。児童がスマートフォンを持っている割合も増えている様子なので、学校のタブレットだけでなく、私用の物の使い方も含め、情報モラルとリテラシーについて、系統立てて指導していきたいと思ひます。

【学校運営協議会における主な意見等】

○タブレット端末の利用が、小学校と中学校で大きな開きがある。まずは、授業中の活用が、小学校よりも充実していればより良い効果があると思うので、授業内での活用を進めてもらいたい。また、家での情報端末の使い方がより良いものになるよう、家庭でも考え、学校でも情報モラルやリテラシーの指導を進めていく必要がある。

○生徒指導の充実が、学校全体を落ち着いたものにする。そのためには、いつでも相談できる風通しの良い職員室にすることと、先生方が大事なことについての共通理解を図って、全員が一貫した指導を続けていくことが必要である。

○地域の行事への参加に否定的な意見について、「参加できない」のか「参加したくない」のかを聞いてみるとよいのではないかと。土日の行事に参加したくてもできない児童の中には、保護者同伴でないと参加できないこともある。特に、低学年は多い。そういう児童が参加できる方法がないか、地域でも話し合う必要がある。